

## 『都市の経済学 小テスト No. 4』

以下の各問に答えよ。解答はマークシート方式となっている。

※で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

### 問 1. 予算制約線について

1.1. ある人の予算制約線は図の  $C_1$  であるとする。合成財の価格を 1 円/個とすると、この人の予算総額は 1 (①100、②200、③3000、④10 万、⑤20 万、⑥30 万) 円である。また、この人が直面している賃貸市場では 1  $m^2$ あたりの家賃は 2 (①100、②200、③1500、④3000、⑤15 万、⑥30 万) 円である。

1.2. 予算制約線上の全ての財の組合せは、購入することが 3 (①可能、②不可能、③不明) である。

### 問 2. 最適な消費について

2.1. 最適な消費をしていないとき、予算制約線と無差別曲線は 4 (①交わらない、②1 点で接する、③2 点で交わる、④その他)。

2.2. 図 1 で予算制約線が  $C_2$  のとき、達成できる最も高い効用水準は無差別曲線 5 (① $U_1$ 、② $U_2$ 、③ $U_3$ 、④ $U_4$ ) である。

2.3. 2.2.の問題で、お金が余ってしまうために選ぶことのない無差別曲線は 6 (① $U_1$ 、② $U_2$ 、③ $U_3$ 、④ $U_4$ 、⑤ $U_1$ と $U_2$ 、⑥その他) である。

2.4. 図において、家賃水準が変化することで予算制約線が  $C_1$  から  $C'$  にシフトした。この時、1  $m^2$ あたりの家賃は 7 (①50、②100、③750、④1500、⑤7.5 万、⑥15 万) 円である。

2.5. ある人の予算制約線はもともと  $C_1$  であった。ここで、家賃補助政策を実施したことで  $U_1$  が最適な効用 (=満足度) を表す無差別曲線となった。このとき、1  $m^2$ あたりの補助金は 8 (①50、②100、③750、④1500、⑤7.5 万、⑥その他) 円である。

図. 無差別曲線と予算制約線

